

シルバー人材センター



シンボルマーク

ニュース

ゆんたく

〈発行所〉

公益社団法人 沖縄市シルバー人材センター

〒904-2155 沖縄市美泉 3丁目1番1号

電話番号 (098) 929-1361

<http://www.okinawasisi.com>

10月末現在の会員数545人

(男性361人・女性184人)

「シルバーの日」学校周辺を清掃ボランティア 美化活動で「普及啓発促進月間」アピール

10月はシルバー人材センター事業の趣旨や意義を広く地域社会にアピールする**普及啓発促進月間**。新型コロナウイルス5類移行後の最初となる今年の月間取り組みは、市内各地でボランティア活動を実施した。当センター独自の取り組みとして「シルバーの日」の21日、コザ中学校と沖縄東中学校の周辺通学路などでゴミ拾いなど美化清掃作業を通して、普及啓発促進月間をアピールした。上原秀雄理事長は「今回はこれからの未来を担う子ども達のためにも学校周辺の環境美化となった。安全第一に作業をお願いしたい」と挨拶。ボランティア活動には主にコザ中校地区や美東・東中校地区の会員の他、役職員など合わせて40名が参加した。



コザ中周辺通学路



沖縄東中周辺通学路



コザ中正門前



沖縄東中に参加の皆さん



コザ中参加の皆さん



沖縄東中周辺通学路

当センター女性部会から5名参加 シルボンヌ沖縄経験交流大会

沖縄県シルバー人材センター連合主催による「令和5年度シルボンヌ沖縄経験交流大会」が10月18日、浦添市アイムユニバースでこのホールで開催され、当センター女性部会から5名が参加した。この大会は、シルバー人材センター事業普及啓発促進月間取組の一環として、女性会員の経験発表等を通じて、会員や一般県民へシルバー事業の基本理念等の正しい理解と女性会員の活動促進を図ることを目的に昨年に続いての開催。県内拠点センターから多くの女性会員が集う中、多彩な大会プログラムに盛り上がった。



あさのうら保育園の園児による演技で大会オープニング



伊禮正子他12名の皆さん=糸満市S.C

経験発表



(右から)比嘉塩子さん、宮城アイ子さん
=名護市S.C

特別講演



特別講演は(株)エフエム沖縄ハッピーアイランドパーソナリティーでおなじみの『多喜ひろみ氏』によるハッピートーク

女性会員らで大賑わい 沖縄市S.C 展示即売ブース

大会会場のロビーでは女性会員による作品の展示即売ブースが設けられ、当センターから喜納愛子さんの黒にんにく・観葉植物や小度輝子さんの手染紅型バッグ・ポーチ、長峯みどりさんは着物でリメイクした女性衣服類を主に出品。丹精込めた観葉植物や傑作揃いの手工芸品とあって大好評。多くの女性会員らで賑わい売り切れ品も続出、展示即売は大盛況だった。



(写真右から)喜納愛子さん、与座由佳さん、長峯みどりさん、
豊田千恵子さん、松本紀子さん、金城洋子さん



「センター事業推進に支援を」 上原理事長ら市、市議会、市教委に要請

上原秀雄理事長、浜比嘉宗明副理事長ら役職員は10月13日、平田嗣已副市長、藤山勇一市議会副議長、比嘉良憲教育長をそれぞれ表敬訪問した。市当局と市議会に全国シルバー人材センター事業協会『令和5年度定時総会』で採択された各自治体への「支援要請」を踏まえた当センター独自の支援要請書をまとめ、手交。上原理事長は席上「公共の受託事業の拡大とインボイス制度導入に伴う財政支援などをお願いしたい」と要望した。市教育委員会との面談では、今後のセンター事業と教育分野との連携などについて意見交換をした。(要請文は4面に全文掲載)



平田沖縄副市長(写真左)に
「要請書」を手渡す上原理事長



(写真右から) 藤山市議会副議長、
上原理事長、浜比嘉副理事長



市教育委員会で面談を終えて
(写真右から) 兼本正人教育部長、比嘉教育長、上原理事長、浜比嘉副理事長



八重島公園で就業する草刈班(金城一成リーダー)の皆さん

しのぎやすい時こそ気を緩めずに 連合と合同安全パトロール実施



中城湾港で就業する草刈班(島袋樽治リーダー)の皆さん

第7回 理事会

15人が新規入会 ―9月実績―

第7回理事会が10月24日、シルバーウークプラザ大会議室で開催された。

議案第1号「正会員の入会」について、15人(男性6人・女性9人)が承認され、その結果10月24日現在の会員数は545人(女性184人・男性361人)となった。なお、9月の退会者は2人。

令和5年9月の主な実績では、会員数530人で4人の微減(0%)、就業実人員298人で33人の減(▲11%)、就業延人員3290人で403人の減(▲12%)、配分金約1897万円で約94万円の減(▲4%)、契約金額約2321万円で約102万円の減(▲4%)となった。

暑さや秋空の下、連合との合同安全・適正就業パトロールが10月23日、草刈班が就業する八重島公園と中城湾港(工業団地)で行われた。連合の我那覇宗孝安全・適正就業パトロール指導員は「しのぎやすくなったとはいえ、夏バテというより夏場の疲れを引きずっている。こういう時こそ意識して気を緩めずに就業に臨むこと」と話した。仲里栄信安全推進員は「丈夫な体づくりにウォーキング等有酸素運動や筋トレの有用性について」を説いた。

我が国においては、人口減少、少子高齢化が進展している中で、誰もがいくつになっても活躍できる社会の実現が求められています。

シルバー人材センターは、地域の日常生活に密着した就業機会を提供することなどにより、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持増進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減などに貢献しています。

「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」において、七十歳までの就業機会の確保が企業の努力義務とされていますが、シルバー人材センターについても、人手不足分野等での就業機会の開拓・マッチング機能や地域ごとの実情を踏まえた積極的な取組の強化が求められています。

このため、国の施策の実現や、地方自治体の施策、地域社会の期待に応えるべく、私たちは今、平成三十年度から令和六年度までの七年間を期間とする「第二次会員百万人達成計画」を踏まえ、会員拡大、とりわけ女性会員の拡大や企業退職（予定）者層への働きかけの強化の取組を強力に推進しているところであり、いくつになっても活躍できる就業機会の創出に努めています。こうしたシルバー人材センターにおける就業やボランティアなどの様々な活動は、SDGs（持続可能な開発目標）と深くつながるものであり、積極的に推進してまいります。

また、「自主・自立・共働・共助」という理念のもと、高齢者の安全就業を確保し、国が定めた適正就業ガイドラインを順守しつつ、

地域社会に貢献するシルバー人材センターの決意と支援の要望

① 介護予防・日常生活支援総合事業、介護施設の介護の周辺業務の切り出し等による要支援高齢者に対する支援事業

② 放課後児童クラブの担い手など子育て中の現役世代や子供たちへの支援事業

③ 人手不足や働き方改革に取り組む地元企業に向けたシルバー派遣等の事業

④ 空き家管理・墓地清掃、遊休地を活用した農園等の独自事業を通じた地域の課題解決に資する事業

等を重点に取り組むとともに、経営基盤の強化を目指して、シルバー人材センターのデジタル化を進め、地域社会の発展と就業意欲のある高齢者の受け皿としての役割を果たしてまいらる決意です。

つきましては、令和六年度のシルバー人材センター事業の推進のために必要なセンターに対する補助金等の確保を要望いたします。

特に、国においては一般会計をはじめとした補助金の確保、新たに独自事業への立ち上げの支援、また、都道府県・市区町村においても、厳しい財政事情の中ですが、国の補助金と同額以上の補助金の確保や、センターに対する市区町村等の公共からの事業発注の確保について、強く要望いたします。

なお、本年十月に導入予定の消費税における「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」が施行されると、免税事業者である会員と取引関係にあるシルバー人材センターには新たな税負担が発生するなど、シルバー人材センターを取り巻く環境は厳しさを増しています。このため、地域社会に貢献するシルバー人材センターの安定的な事業運営が可能となり、経営基盤の強化につながる措置を要望いたします。

◇11月の予定◇

- ・21日（火）午前10時
第8回理事会
- ・29日（水）午前9時
刈払機取扱い作業者に
対する安全衛生教育

編集後記

先月上旬からサシバの渡りに次いでミイニシが吹きはじめするなど、やっと秋らしくなってきた。全国では今年、記録づくめの猛暑が続き、夏日や熱帯夜の記録更新が各地で相次いだ。10月半ばから一転して秋の気配。紅葉に象徴される本土の秋は風情がありウチナーにはないものだ。そんな中、市内の公園ではサガリバナやヒカンザクラが咲き、ヤンバルではイジュが季節外れの開花という異変が新聞やテレビで伝えられた。季節感乏しく小夏日和といったこの時季に、普及啓発促進月間や県シ連のシルボシ大会などシルバーのイベントが開催された。11月に入るとススキやサトウキビの穂が風に揺れる。この地の秋を感じたい。

編集 東條 正躬
大城 博